

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：工事実施率				指標の求め方：実施箇所/予定箇所											
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：整備率				指標の求め方：整備累計延長/7期総計の計画延長											
			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画		
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 計			
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/%)	計画値 100	100	100		100	100	100		100	100	100	100				
			実績値 100	100	100		100											
		成果指標 1 (単位/%)	計画値 13.3	23.3	33.3		43.3	53.3	69.3		76.0	82.7	89.3	100.0				
			実績値 13.4	20.0	27.4		33.2											
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている											
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					少し上がっている											
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					あまり上がっていない											
		総合評価					良好である											
		総合評価の判断理由 または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 歩車道を区分した整備により、歩行者及び車両の安全かつ円滑な通行が図られた。補助金（交付金）の配当が削減されたが、市単独費（起債の活用）により事業の促進を図った。	自己分析： 歩道拡幅及び劣化による損傷が激しい車道を再整備することにより、歩行者及び車両の安全かつ円滑な通行が図られた。補助金（交付金）の配当が削減されたが、市単独費（起債の活用）により事業の促進を図った。	自己分析： 補助金（交付金）の配当が削減されたことや、近年の物価や人件費の高騰の影響から、成果指標の目標値に達していないが、歩道拡幅及び劣化による損傷が激しい車道を再整備することにより、歩行者及び車両の安全かつ円滑な通行が図られた。	判断理由： 交付金による補助事業を行っており、近年は要望している金額に対して減額での交付決定となっているため事業延長等の減が見られるが、事業内容では歩車道を区分した整備により、安全かつ円滑な通行が図られているため良好と判断した。	自己分析： 歩道拡幅及び劣化による損傷が激しい車道を再整備することにより、歩行者及び車両の安全かつ円滑な通行が図られた。補助金（交付金）の配当が削減されたことや、近年の物価や人件費の高騰の影響から、成果指標の目標値に達していないが、市単独費（起債の活用）により事業の促進を図った。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：			
	今後の方向性					現状のまま継続												
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 市道改良舗装事業は、市民や町内会からの要望が多く、市内道路網において、安全かつ円滑な通行を図るために、今後も継続して事業を行う必要があることから、「現状のまま継続」とした。					R8：					R10：						

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

事業名	市道改良舗装事業（単独）				事業期間	令和3年度 ～ 年度								
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設	第7期総合計画の位置付け	5-1-1	他に関連する基本事業	2-6-3	-	-	-	-	所管課係	土木課土木係
目的 (何のために実施するのか)	住民に密着した生活道路の恒久舗装化を進めることにより、安全で快適な生活道路網の維持につなげる。							手段 (どのような方法で実現するのか)	請負工事により、地域に応じた幅員や構造で路盤改良及び舗装と歩道の設置や排水施設等の整備を効果的・効率的に行う。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	砂利道・簡易舗装道・二次改築を必要とする市内路線及び道路利用者。							成果 (どのような効果が得られるのか)	道路状況に応じた、効果的・効率的な改良舗装が進む。					
事業開始時の状況・これまでの経緯		自家用車保有台数の拡大などに伴って交通量が増大し、幹線的な役割を果たす市道における交通の円滑化を図る必要が高まってきたことから、計画的に改良舗装を行っている。												

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画 計
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	
投入された事業費の推移	国費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	道費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	地方債	計画額	273,700,000	407,900,000	390,800,000	1,072,400,000	435,600,000	383,500,000	496,100,000	1,315,200,000	575,200,000	626,100,000	544,200,000	639,900,000	4,773,000,000
		予算計上額	280,900,000	319,700,000	364,800,000	965,400,000	435,600,000	524,300,000	959,900,000						1,925,300,000
		実績額	256,600,000	284,900,000	361,000,000	902,500,000	412,400,000		412,400,000						1,314,900,000
	その他	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	一般財源	計画額	15,700,000	73,250,000	91,150,000	180,100,000	673,000	60,490,000	114,900,000	176,063,000	55,200,000	104,500,000	124,600,000	98,500,000	738,963,000
		予算計上額	15,980,000	32,466,000	15,000,000	63,446,000	673,000	647,000	1,320,000						64,766,000
		実績額	14,935,000	29,678,000	801,000	45,414,000	881,000		881,000						46,295,000
	事業費合計	計画額	289,400,000	481,150,000	481,950,000	1,252,500,000	436,273,000	443,990,000	611,000,000	1,491,263,000	630,400,000	730,600,000	668,800,000	738,400,000	5,511,963,000
		予算計上額	296,880,000	352,166,000	379,800,000	1,028,846,000	436,273,000	524,947,000	961,220,000	0	0	0	0	0	1,990,066,000
		実績額	271,535,000	314,578,000	361,801,000	947,914,000	413,281,000	0	413,281,000	0	0	0	0	0	1,361,195,000
	事業費予算の内容		工事：13箇所委託：6箇所 工事延長：L=950m	工事：14箇所委託：5箇所 工事延長：L=1,325m	工事：14箇所委託：5箇所 工事延長：L=1,615m		工事：11箇所委託：5箇所 工事延長：L=1,970m	工事：12箇所委託：5箇所 工事延長：L=1,941m							
	前年度予算との比較 (増減理由)		—	前年度比118.6% (事業箇所及び延長の増)	前年度比107.8% (事業延長の増)		前年度比114.9% (事業延長の増)	前年度比120.3% (事業箇所及び物価上昇等による増)							
	実績との比較 (増減理由)		事業箇所や延長等の精査及び入札による減	事業箇所や延長等の精査及び入札による減	入札による減		入札による減								

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：工事実施率			指標の求め方：実施箇所/予定箇所										
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：整備率			指標の求め方：整備累計延長/7期総計の計画延長										
			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 計	
事業 業務 事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/%)	計画値 100	100	100		100	100	100		100	100	100	100		
		実績値 100	100	100		100										
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 3.2	12.3	22.5		32.1	42.6	53.0		65.4	77.1	89.1	100.0			
		実績値 3.1	7.3	12.4		18.7										
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				少し上がっている										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				あまり上がっていない										
		総合評価				良好である										
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 道路状況に応じ、効果的、効率的な改良舗装が進み、安全で快適な生活道路網の整備が図られた。	自己分析： 物価や人件費の高騰により事業費上昇の影響があるが、道路状況に応じ、効果的な改良舗装を進め、安全で快適な生活道路網の整備が図られた。	自己分析： 物価や人件費の高騰による事業費上昇の影響などから、成果指標の目標値に達していないが、道路状況に応じた事業箇所の選定など、効果的な改良舗装を進めることができた。	判断理由： 物価上昇等の影響により事業効率率はあまり上がっていないが、道路の状況に応じて事業箇所を変更しており、効果的な改良舗装が進み、安全で快適な生活道路網の整備が図られているため、良好と判断した。	自己分析： 物価や人件費の高騰による事業費上昇の影響などから、成果指標の目標値に達していないが、道路状況や住民の要望等を考慮しながら、適切に事業箇所の選定を行い、効果的な改良舗装を進めることができた。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 市道改良舗装事業は、市民や町内会からの要望が多く、市内道路網において、安全かつ円滑な通行を図るために「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：						

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

事業名	街路灯（LED）整備更新事業				事業期間	令和3年度 ～ 年度								
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設	第7期総合計画の位置付け	5-1-1	他に関連する基本事業	2-3-1	-	-	-	-	所管課係	土木課土木係
目的 (何のために実施するのか)	夜間において道路状況、交通状況を的確に把握するため良好な視覚環境を確保し、道路交通の安全、円滑化を図る。 また、老朽化に伴う街路灯の更新を進める。							手段 (どのような方法で実現するのか)	請負工事により、道路照明設置基準に準じ街路灯の設置及び更新を行う。					
対象 (誰、何を対象としているのか)	主要設置及び更新箇所の、街路灯を必要とする市内路線及び道路利用者。							成果 (どのような効果が得られるのか)	主要箇所に街路灯を設置及び更新することにより、夜間の交通事故防止対策や防犯及び老朽化対策にも繋がる。 また、LED化により、電気の使用量が減り温室効果ガスの排出削減に繋がる。					
事業開始時の状況・これまでの経緯			第6期総合計画では、交差点や横断歩道、橋梁、公共施設に接続する道路等において、94基のLED街路灯の設置及び更新事業を進めてきている。 夜間の道路状況を把握するための環境が確保され、道路交通の安全・円滑化が図られ、LED型を使用することにより、電気料の削減、温室効果ガスの排出削減が図られた。 しかし、近年、街路灯の灯柱や灯具の老朽化に伴い、街路灯本体やランプ等の更新が必要であることから、設置事業・更新事業の統合を行い事業を進めていくこととした。											

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画 計
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	
投入された事業費の推移	国費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	道費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	地方債	計画額			0	20,000,000	20,000,000		40,000,000					0	40,000,000
		予算計上額			20,000,000	20,000,000	20,000,000		40,000,000					0	60,000,000
		実績額		12,300,000	18,900,000	31,200,000	19,300,000		19,300,000					0	50,500,000
	その他	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	一般財源	計画額	13,000,000	13,000,000	39,000,000			13,000,000	13,000,000	13,000,000	13,000,000	13,000,000	13,000,000	52,000,000	104,000,000
		予算計上額	13,000,000	13,000,000	0	26,000,000	0		0					0	26,000,000
		実績額	12,320,000	9,000	12,404,000	60,000			60,000					0	12,464,000
	事業費合計	計画額	13,000,000	13,000,000	39,000,000	20,000,000	20,000,000	13,000,000	53,000,000	13,000,000	13,000,000	13,000,000	13,000,000	52,000,000	144,000,000
		予算計上額	13,000,000	13,000,000	20,000,000	46,000,000	20,000,000	20,000,000	0	40,000,000	0	0	0	0	86,000,000
		実績額	12,320,000	12,309,000	18,975,000	43,604,000	19,360,000	0	19,360,000	0	0	0	0	0	62,964,000
	事業費予算の内容		LED街路灯 12基 (新設 2基 更新 10 基)	LED街路灯 12基 (新設 3基 更新 9基)	LED街路灯 20基 (新設 2基 更新 18基)		LED街路灯 20基 (更新 20 基)	LED街路灯 20基 (更新 20 基)							
	前年度予算との比較 (増減理由)	—		前年度と同額	前年度比153.8% (更新基数の増) 緊急自然災害防止対策事業債を活用し、事業促進を図った。		前年度と同額	前年度と同額							
	実績との比較 (増減理由)		入札による減	入札による減	入札による減		入札による減								

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：工事実施率				指標の求め方：実施箇所/予定箇所									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：設置率				指標の求め方：設置累計基数/ 7 期総計の計画基数									
				第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画				第 7 期 総 合 計 画 計	
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)		実施 4 力年 合 計
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/%)	計画値	100	100	100		100	100	100		100	100	100	100		
			実績値	100	100	100		100									
		成果指標 1 (単位/%)	計画値	10	20	30		40	50	60		70	80	90	100		
			実績値	10	20	37		53									
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
			事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっている										
			事業の効率性 (事業費に対する成果)				少し上がっている										
			総合評価				良好である										
				自己分析： 夜間の道路状況 を把握するための 環境が確保され、 道路交通の安全、 円滑化が図られた ことに加え、老朽 化対策も進められ た。 また、LED型を 使用することによ り、電気料の削減 、温室効果ガスの 排出削減が図られ た。	自己分析： 夜間の道路状況 を把握するための 環境が確保され、 道路交通の安全、 円滑化が図られた ことに加え、老朽 化対策も進められ た。 また、LED型を 使用することによ り、電気料の削減 、温室効果ガスの 排出削減が図られ た。	自己分析： 夜間の道路状況 を把握するための 環境が確保され、 道路交通の安全、 円滑化が図られた ことに加え、老朽 化対策も進められ た。 また、LED型を 使用することによ り、電気料の削減 、温室効果ガスの 排出削減が図られ たことに加え、昨 年度より起債（緊 急自然災害防止対 策事業債）を活 用してきたこと により、適切な財 源の確保及び事 業促進を図って きた。	判断理由： 夜間の道路状況 を把握するための 環境が確保され、 道路交通の安全、 円滑化が図られ たことにより、電 気料の削減、温 室効果ガスの排 出削減が増やす ことにより、事業 進捗を図っている ため、良好と判断 した。	自己分析： 夜間の道路状況 を把握するための 環境が確保され、 道路交通の安全、 円滑化が図られ たことに加え、老 朽化対策も進め られた。 また、LED型を 使用することによ り、電気料の削減 、温室効果ガスの 排出削減が図られ たことに加え、起 債（緊急自然災害 防止対策事業債） を活用すること により、適切な財 源の確保及び事 業促進を図って きた。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
	今後の方向性					現状のまま継続											
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： LED型を使用することにより、電気料の削減、温室効果ガスの排出削減が図られているため、今後も継続して使用し、夜間の道路交通の安全、円滑化を図るためにも街路灯の設置は必要と考えるため「現状のまま継続」とした。 また、緊急自然災害防止対策事業債などの起債を活用し、老朽化による倒壊等も起こさないよう事業促進を図る必要がある。				R8：				R10：						

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：年間バトロール距離	指標の求め方：年間バトロール実施距離
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：施設利用時の維持管理が原因で起きた事故件数	指標の求め方：施設利用時の維持管理が原因で起きた事故発生件数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/Km)	計画値 1,434	1,434	1,434		1,434	1,434	1,434		1,434	1,434	1,434	1,434		
			実績値 1,434	1,434	1,434		1,434									
	成果指標 1 (単位/件)	計画値	0	0	0		0	0	0		0	0	0	0		
		実績値	0	1	0		1									
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっていない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
		総合評価				問題がある										
			自己分析： 老朽化が激しく 更なるバトロー ル強化が必要と なる。	自己分析： 道路施設や河川 施設の老朽化は これまでと変わ らず進んでいく ためこれまでと 同様のバトロー ルが必要である 。 公園施設につい ては、設置され てから30年以上 経過した遊具が 多く、毎年行っ ている点検の結 果も良好とはい えない状況であ り、さらに遊具 使用中の事故も 起きたため、バ トロール強化が 必要となる。	自己分析： 道路施設や河川 施設の老朽化は これまでと変わ らず進んでいく ためこれまでと 同様のバトロー ルが必要である 。 また、昨年同様 公園施設につい ては、設置され てから30年以上 経過した遊具が 76箇所あり令和 6年度に予算化 を行い6箇所を 実施する予定で あるが、事故防 止の観点から引 き続き公園内の バトロールを行 っていきたい。	判断理由： 活動指標として は達成されてい るが、事業成果 としては、事故 が1件あったこ とから「問題が ある」とした。	自己分析： 道路施設や河川 施設、公園施設 の老朽化はこれ までと変わらず 進んでいくこと や、道路施設の 雨水樹の蓋が不 安定だったこと による歩行者の 事故が1件発生 していること、 また、舗装の破 損による通行障 害や事故の恐れ もあることから 引き続きバト ロールが必要で ある。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
		今後の方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 道路施設等バトロールは、いかなる施設も経年劣化は避けられず、劣化は日々進んでいくため、市民の方々が安全に利用してもらうために必要であるため、引き続き実施していくことから「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：					

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：修繕延長				指標の求め方：修繕延長									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：道路修繕事業進捗率				指標の求め方：整備延べ延長 / 計画延長									
			第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総合計画
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第 10 年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/m)	計画値 190	440	610	—	700	720	920	—	900	700	700	750	—	
			実績値 190	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		成果指標 1 (単位/%)	計画値 2.9	9.6	18.8	—	29.3	40.2	54.0	—	67.6	78.2	88.7	100.0	—	
			実績値 2.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)														
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)														
		事業の効率性 (事業費に対する成果)														
		総合評価														
			自己分析： 初年度は、補修工法の変更から過疎債を活用し、車道のみの打換え事業を行ったが、今後は、土木係で行う歩道改築と一体的に整備を行なう方が、事業の効率性が計れるため、土木係の道路事業の中で進めることとする。	自己分析： 土木係の市道改良舗装事業（単独）にて評価。	自己分析： 土木係の市道改良舗装事業（単独）にて評価。	判断理由： 土木係の市道改良舗装事業（単独）にて評価。	自己分析： 土木係の市道改良舗装事業（単独）にて評価。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
		今後の方向性					現状のまま継続									
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 土木係の市道改良舗装事業（単独）にて評価。				R8：				R10：					

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：修繕橋梁数	指標の求め方：修繕橋梁数
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：計画期間における修繕橋梁進捗率	指標の求め方：修繕橋梁延べ数 / 修繕計画数

				第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総合計画
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/橋)	計画値	1	0	2		0	3	0		1	1	2	2		
			実績値	1	0	2		0									
		成果指標 1 (単位/%)	計画値	8.3	8.3	25.0		25.0	50.0	50.0		58.3	66.7	83.8	100.0		
			実績値	7.1	7.1	25.0		25.0									
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
		総合評価					良好である										
			自己分析： 補助金も確保され、計画通り事業を進めることができた。また、令和5年度実施事業より、制度の変更があり、修繕工事には、新工法の検討が必要となる。	自己分析： 前年同様補助金が必要額満額確保され、計画通り事業を進めることができた。橋梁長寿命化計画を令和3年度、令和4年度の点検結果をもとに更新したため、令和6年度からは新計画に基づき事業を実施していくこととなる。	自己分析： 前年同様補助金が必要額満額確保され、計画通り事業を進めることができた。今後も計画に基づき事業を実施していくこととなる。	判断理由： 補助金の制度も令和2年度に変更となり要望額とほぼ同額の事業実施が可能となっていることから事業の進捗に変動がなくなったため、計画通り事業を進めていくことが出来たため「良好である」とした。	自己分析： 前年同様補助金が必要額満額確保され、計画通り事業を進めることができた。今後も計画に基づき事業を実施していくこととなる。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
		今後の方向性					現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 令和4年度に計画変更を行い、令和6年度より計画変更を行った事業が実施されるが、新工法の検討が盛り込まれたことにより事業費は増額となっていく傾向となる。しかし、安全な交通を確保するためには、橋梁の修繕は必要不可欠であるため「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：除排雪委託費	指標の求め方：その年の降雪量の多さによるところもあるので計画値は設定せず実績管理のみとする
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：道路の通行を確保した路線延長	指標の求め方：除雪路線延長

			第 1 次実施 3 カ年計画				第 2 次実施 3 カ年計画				第 3 次実施 4 カ年計画					第 7 期 総 合 計 画 計
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 カ年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第 10 年次 (12年度)	実施 4 カ年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値 298,397	300,000	300,000		300,000	300,000	300,000		300,000	300,000	300,000	300,000		
		実績値	349,875	384,821	352,553		320,289									
	成果指標 1 (単位/Km)	計画値	233	233	233		233	233	233		233	233	233	233		
		実績値	233	233	233		235									
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっている										
		総合評価				良好である										
			自己分析： 昨年以上の大雪だったが、排雪の回数を増やすことや、堆雪場所の確保などの対応により、大きな交通障害も起こさず市道の円滑な通行をおおむね確保できた。排雪及び雪取り費用が増大したため、全体の除排雪費用が増大した。	自己分析： 昨年より降雪量は少なかったが、12月の降雪量が昨年の1.7倍となり緊急的な排雪作業も必要となり、また、同様に堆雪場所を確保するための費用が増大したため全体の除排雪費用が増大した。	自己分析： 昨年に引き続き7mを超える降雪量となった。11月の降雪が多かったが降雪時期が早く融雪が進んだため、降雪量に対して除雪費用は昨年より減となった。	判断理由： 人件費や燃料費など増加傾向であるが、道路及び雪捨て場など搬入路の確保に重点を置き、効率的な除排雪作業を行うことが出来たため「良好である」とした。	自己分析： 除雪延長については、歩行者や車両の通行状況等を考慮し増となった。昨年より降雪量は少なく約6mだったため、除雪費用は昨年より減となった。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
		今後の方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 高齢化により間口除雪が増えており、今後も堆雪場所の確保等は、降雪量にもよるが継続的に必要と考えている。また、除排雪作業を行う人材が不足していく傾向でもあり、人材確保が課題となっている。冬期間の円滑な通行を確保するため除排雪事業は必要であるため「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：					

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：各年度の機械更新台数				指標の求め方：各年度の機械更新台数									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：各年度の機械更新率				指標の求め方：各年度の機械更新台数 / 各年度の機械更新計画台数									
			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/台)	計画値 1	実績値 1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		成果指標 1 (単位/%)	計画値 100	実績値 100	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない										
	評価内容	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
		総合評価				極めて良好である										
			自己分析： 15年以上経過した車両を申請しても採択が確実ではないため、粘り強く申請していく。	自己分析：	自己分析：	判断理由： 当初の計画通り車両の更新は、進んでいるため「極めて良好である」とした。	自己分析： 更新が必要な車両を除雪作業に支障をきたすことがなく、また、費用については交付金を活用し更新できたため、事業の目的を達成している。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
			総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析													
		今後の方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 現在のところ、道路管理協同組合に委託しており、民間各社での車両の不足は生じていないが、市内の除排雪作業に影響が出ないよう継続的な更新と場合によっては増車も必要であることから「現状のまま継続」とした。				R8：				R10：					